

第2学年6組 道徳指導案

- 1 主題名 相手の立場で物事を考える大切さ〔内容項目B－(9)：寛容〕 (1時間完了)
〈資料名 「なみだ」 出典：あすをひらく (東京書籍)〉

2 ねらい

人は誰しも、苦しいときやつらいときは自分のことばかりを考えてしまいがちである。けがをさせたS君の母親の涙の意味を考えたことをきっかけに、相手のことを思うことの大切さに気づいた主人公の私の気持ちに共感させることを通して、苦しいときでも相手のことを考えて行動しようという道徳的な実践意欲を高める。

3 ねらいとする道徳的価値

相手の気持ちを考えて行動するという事は、多くの中学生にとって簡単なことではない。現に本学級でもよく言えば素直に、悪く言えば相手の気持ちを考えずに自分の思ったことを表現する生徒が多い。しかし、中学校という集団生活の中で相手を思って行動することは必要なことであり、学ぶべきことのひとつである。さらに、学級という集団の中で、自分が苦しいときでも相手のことを思い、行動できる生徒が多くいれば、よりよい学級へとになっていく。主人公の私が、けがをした自分よりさせたS君のほうがつらいだろうとS君を思って行動したように、苦しいときでも相手の気持ちを考えて行動できる生徒に育ててほしい。

4 ねらいとする道徳的価値に関する生徒の実態と願い

(1) 学級について

本学級は明るく元気で素直な子が多い。特に男子生徒は正直に自分の考えを発言できる生徒が多く、道徳の時間でも進んで自分の考えを発表する。一方で女子生徒は周囲の様子を気にかけて、自分の考えを発表することをためらう生徒が多い。また、男子の中には、素直に発言できる反面、相手のことを考えずに自分の思ったことを言い、トラブルになったり相手を傷つけるような発言をしたりする生徒もいる。資料の中で主人公の私は、けがをさせてしまったS君とその母親が謝罪に来たとき、S君の母親が流した涙を自分の息子のことを考えた涙とはじめは思っていた。しかし、その涙は自分を思って流した涙であることに気づき、S君を心配させないように、平気なふりをして行動や発言をするようになる場面がある。この場面の私の気持ちを考えさせることや、もし自分が主人公なら同じ言動ができるのかと発問することで、ゆさぶりをかけ生徒たちの本音を引き出せるようにする。友達の意見を聞く中で、自分の思ったままに行動するだけでなく、相手を思い、相手のことを考えて行動する大切さを少しでも感じてほしい。

(2) 抽出生徒について

① 抽出生徒Aについて

優しい心の持ち主で、今までの道徳の授業でも主人公の気持ちに寄り添って考えることができる。「銀色のシャープペンシル」という資料を取り上げた授業では、「あなたが主人公なら嘘をついていたことを正直に話しますか」という発問に対して、「正直に話したいけど、自分が主人公

だったら話すことはできず嘘をつき続けると思う」と主人公の気持ちに寄り添いながら葛藤し、弱い自分に負けてしまう気持ちを素直に表現した。本時では「けがをさせた方がつらい」という意見をもつことが予想される。しかし、心の中では「けがをさせた方がつらい」とは言えないと思っていると考えられる。そうしたAの葛藤をとらえ、Aとは異なる意見をもつ生徒を指名した後、意図的にAに「どう思う」と問うことでゆさぶりをかけ、考えを深めさせていきたい。

②抽出生徒Bについて

Bは道徳の授業でよく発言し、自分の考えを積極的に他者に伝えることができる。自分の考えが少数派である場合でも堂々と自分の考えを発言することができ、学級全体をゆさぶるような発言をし、話し合いを盛り上げる起点となる。また、強い正義感をもっていて、どんな状況でもだめなものだめという考え方をする場面が多い。本時でも「けがをさせた方がつらい」という考えではなく、「けがをした方がつらい」という考えをもつことが予想される。級友の「けがをさせた方がつらい」という意見にどのように耳を傾け、本人の意見が変容していくか、意図的指名をしいていきながらBの考えの変容を見守りたい。

5 資料について

(1) 資料の概要

「私」が掃除しているときに、相手の不注意により大きなけがをしてしまう。その後、けがをさせたS君と母親が謝罪しに「私」の家まで来て、母親が涙を流す。このとき、「私」は母親の流した涙は自分の息子のためだと思っていたが、あとから考えると「私」のために流した涙だったのではないかと気づく。それに気づいたとき「私」は自然と涙を流してしまう。

その後の「私」はS君のことを考え、痛いのを我慢し、平気なふりをして生活していくことになる。そして最後に母親から友達のために流した涙について「価値のある涙」と声をかけられ何とも言えない気持ちになる。

(2) 「耳をすまして、学びを拓く」ための資料の生かし方

①資料との対話をさせるための手だて

相手のことを考えて行動をするということをお口で言うのは簡単である。自分がつらいときでもそう言えるのかをじっくりと内省させるように範読を工夫する。本文を範読する際にはけがの大きさが分かる部分、「私」が痛みや不安をこらえている部分で口調を変えたり、強調して読み上げたりするなどしてとても大きなけがであることを気づかせるようにする。こうした音読の工夫を行いながら、「私」がS君の母親の涙の意味を理解し、自分も涙する場面で自分の痛みや不安を忘れ、相手を心配りする涙を流していることを生徒が考えられるようにする。また、人物と行動を整理し、板書にわかりやすく貼りだしていくことで、資料との対話を進めていき、私やS君の母の気持ちを考えさせて授業に取り組みさせる。

②他者との対話、自己内対話をさせるための手だて

中心発問では「あなたが私ならけがをした方よりさせた方がつらいと思えるか」と投げかける。多くの生徒がさせた方がつらいと思うと思うが、生徒Bはした方がつらいとなると考えると予想される。ここで生徒Bの意見とけがをさせた方がつらいという生徒の意見をぶつけることで互いの考えにゆさぶりをかける。

6 板書計画 (次ページ参照)

7 本時の展開

時間	学 習 活 動	※教師支援 ☆評価
	<p style="text-align: center;">最近どのような場面で涙を流したか。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 20%;">映画(ドラマ)で感動して泣いた。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%; text-align: center;">支所予選で先輩たちの最後の試合が終わったとき。 (①)</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 20%;">けがをして、痛くて泣いた。</div> </div>	<p>※相手の気持ちを考えて出た涙であることを気づかせるために、「なぜ、他人のために涙が出てきたのか」と問い直し、深く掘り下げられるようにする。(①: E 切り返す)</p>
3	<p>○資料の範読を聞く。 ○あらすじを確認する。</p>	
10	<p style="text-align: center;">部屋に入ってから「私」はなぜ泣き出してしまったのだろう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 20%;">痛みがぶり返してきたから。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%; text-align: center;">自分がS君のお母さんを疑って、自分に悲しくなった。(②)</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 20%;">S君のお母さんは私のために泣いてくれたのにそれに気づけなかったから。(③)</div> </div>	<p>※自分に悲しくなっていることに気づいている生徒の意見を取り上げることで、S君の母を信じられなかった自分に後悔しているという考えを学級全体に広げていく。(② C : 気づかせる)</p> <p>※生徒の考えを深めるために、なぜS君のお母さんの気持ちに気づけなかったら涙が流れてくるのかと問う。(③ B : 認める)</p>
15	<p style="text-align: center;">「たいしたことないよ」と話しているとき、私はどんなことを思っていたのだろう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 20%;">みんなに心配かけたくない。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%; text-align: center;">S君をこれ以上悪く思われないようにしないといけない。(④)</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 20%;">S君のお母さんに心配をかけさせたくない。(④)</div> </div>	<p>※みんなではなく、S君やS君のお母さんに着目した意見をもつ生徒を意図的に指名することで、相手のことを考えて行動するということが出来るようにする。(④ B : 生かす)</p>
25	<p style="text-align: center;">もし、あなたがこの資料の中の私なら「けがをした方よりさせた方がつらいのではないか」と思うか。</p> <p>○相互指名で話し合う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%; text-align: center;"> <p>〈させた方がつらい〉</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 80%;">けがをさせてしまった責任を感じ自分を責め続けるのはつらい。</div> </div> <div style="width: 10%; text-align: center;"> <p>⇔</p> </div> <div style="width: 45%; text-align: center;"> <p>〈した方がつらい〉</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 80%;">被害者は自分で、痛い思いをしているのも自分だから思わない。</div> </div> </div>	<p>※他人のことを考えて行動することは難しいことであるが大事なことであることに気づかせるために、「自分たちならどう」と補助発問を投げかけることで、自分に置き換えて考えることが出来るようにする。</p> <p>※「こらえきれぬほどの痛さ」「指はどうなるのだろうか」と不安がつものなど痛みを我慢しながら平気なふりをできないという意見を取り上げ、抽出生徒Aをゆさぶる。(⑤ E : ゆさぶる)</p>

周りはけがをした自分ばかりに声をかけ、S君が悪者になると予想できるから。

「こらえきれないほどの痛み」があるのだから、けがをした方がつらいに決まっている。(5)

痛みは自分を我慢すればいい。けがをさせたしまった方が精神的につらい。(6)

被害者は自分で痛い思いをしているのも自分だから思わない。

※抽出生徒Bをゆさぶり考えを深めるために、「精神的につらい」という意見をぶつけようと思うか問い返す。

(6E：切り返す)

☆「けがをさせた方がつらい」という考えに対して、他人の意見に耳を傾け考えを深めることができたか
(発言、うなずき)

40

○振り返りをする。

相手のことを考えずに行動してしまった経験やその経験からくる後悔の気持ちなどを発表させ、教師が寄り添うように共感し、「難しいけど相手のことを考えて行動できる人間でありたいね」と声をかけ、これから道徳的実践意欲を高めていけるような終末にする。

※道徳的実践意欲を高めるために、自分の経験にもとづいて書いている生徒を意図的に指名する。

つらいとき、苦しいときでも相手の立場になって考えると自分のとるべき行動が見えてきて、自分自身の成長につながることに気づく姿。

☆どんな時でも相手の立場に立って気持ちを考えることができたか。
(発言・ワークシート)

授業の視点

- ① 「けがをした方より、させた方がつらいとあなたなら思いますか」という、生徒を主人公と同じ立場に立たせて考えさせる発問は、生徒の考えをゆさぶるうえで有効であったか。
- ② 相手の気持ちを考えて行動できるようになるというねらいに迫るうえで、(5E：ゆさぶる、6E：切り返す)で意図的に指名したことは有効であったか。

板書計画

「なみだ」

私：S君の不注意でひどいけが

S君：下を向いたまま

S君母：涙を流して謝罪

← 私のための涙

「たいしたことないよ」と話しているとき

どんなことを考えていたか

みんなに心配をかけたくない

S君をこれ以上悪く思わせないようにしたい。

S君のお母さんをこれ以上悲しませたくない。

あなたが私なら「けがをした方より、させた方がつらいと思うか。」

させた方がつらい

けがをさせてしまった責任感を考えるとつらい。

痛みは自分が我慢すればいいが、けがをさせてしまった方が精神的につらい。

した方がつらい

被害者は自分で、痛い思いをしているのも自分だから思わない。

「こらえきれないほどの痛み」があるのだから、けがをした方がつらいに決まっている。